「metaSAN導入後、テープレス運用とネットワークの見直しはセットで考えるべきだと納得した。」

～　サウンド・シティの"強み"をより効果的に引き出した高速ネットワーク　～

metaSAN　ユーザー事例

株式会社サウンド・シティ　様

metaSAN

株式会社サウンド・シティについて

株式会社サウンド・シティ様は1961年に創業し、老舗のレコーディングスタジオとして数々の音楽作品に参加する一方、映像制作においてもノンリニア編集／テレシネ／カラーグレーディングと、幅広い制作展開を行うポストプロダクション。制作ネットワークのメインインフラとしてmetaSANを導入。約20TBのセンターストレージを中心にAutodesk（Inferno/Flame/Smoke)と2台のFinalCutStudioが高速FibreChannelネットワークで接続、フィニッシングを行うda vinci Resolve へのスムーズなデータ移行を実現しています。2010年（秋）の社屋リニューアルを迎え、ノルディック調の内装デザインの中、システムの拡張により、更なるハイエンドな作品作りを目指す新生サウンド・シティ様に当社metaSANの導入経緯について、御話を伺いました。

技術管理室 室長　井口　信吾 様（写真左）
技術部テレシネ チーフエンジニア　杉山　裕信 様（写真右）

導入の経緯

Autodesk Inferno/Flame/Smoke 間のクローズなデータ共有用ネットワークインフラこそ存在していたのですが、編集室間の受渡しはまだまだテープベースでした。弊社がもっとも力を入れているカラーグレーディングツールであるda vinci Resolveの導入によりファイルベースに対応できるようになったことが全体の制作ネットワークを見直す大きなきっかけとなりました。」（井口氏）

SDやHDサイズのワークフローにおいてはテープベースで対応ができていましたが、4Kなどの高解像度サイズへの対応や、様々なデジタルカメラがRAWファイルに対応したことで、より高品質な状態からグレーディングを行うためにはトータルワークフローを見据えたファイルベース化は必然でした。またオフラインデータの持ち込みリクエストも増加する中、ファイルベースによるインジェスト業務に対して、どう対応するのか？といったことは大きな課題のひとつでした。

「ファイルベースのインジェスト環境を考えたとき、Mac以外の選択は考えていませんでした。」（井口氏）Autodeskのサブマシンとして馴染みのあったMacの選択はQuickTimeとの相性やAutodeskとの連携を考えると最適でした。また様々なフォーマットのインジェストに対応することを考えると、Apple Final Cut StudioやAdobeといった複数のアプリケーションを同梱でき、ターンキーではない、自由なハードウェアの組み合わせが可能で、低価格にシステムアップができることも魅力の一つでした。

「HD化によるデーター容量の増加を考えた時、アーカイブエリアの容量確保は必須条件でした。ただ個々の端末のストレージ容量増加にこれ以上コストをかけることは考えていませんでした。」(杉山氏)

「これまでのアーカイブ業務にはS-AITやLTOなどのテープメディアを使用していましたが転送速度の面で高速化のニーズが社内でも高まり、各マシーンからの共有ボリュームとして高速にアクセスができるセンターストレージにコストをかけよう、という結論に反対の声は上がりませんでした。」（井口氏）

こうして、Autodesk、Mac、da vinci Resolveの多種のアプリケーションと多種なOSがクロスする環境に対応し、高速なデーター伝送が行える最適なネットワーク構築の検討が行われました。

導入のポイント

「当初は、ビデオI/Oを搭載したNASを検討していたのですが、ＩＴのスペックアップの早さと、長期スパンで運用を行うことを考えると、センターストレージにメーカー依存型の専用ストレージを導入することに、かなりの抵抗感がありました」（井口氏）

ハードウェア型のSANやXsanも検討をしましたが、将来的な拡張性の自由度を考えると、弊社のワークフローに最適なシステムであるとは言い難いものでした。そんな折、Mac導入のシステムアップのお手伝いをさせて頂いた弊社ＶＧＩが開催するセミナーに参加したのがmetaSANを知ったきっかけでした。「metaSANのプレゼンテーションで印象に残ったのは"オープン"というキーワードでした。

インジェストマシンに採用したMacの選択理由と同じで、ハードウェア選びに自由度があり、多種なOSと様々なアプリケーションに柔軟に対応するmetaSANの"オープン"なコンセプトこそ弊社のワークフローに最適でした。」(井口氏)

その後も業務の合間を見つけて足しげくＶＧＩのセミナーに参加し、metaSANのプレゼンテーションを繰り返しヒアリングしました。

「長期的な運用を考えていたからこそ、選定するシステムインテグレーターの選択には慎重になりました。映像システムの多くがターンキーやがちがちの専用システムであることが一般的でしたが、VGIさんのITを切り口に"オープン"な映像システムインテグレーションションを目指している、というスタンスはかなり衝撃的でした。」(井口氏)

そんな中、Autodeskの代理店であるシリコンスタジオ㈱との協業セミナーの案内が届き、metaSANがAutodeskをサポートしたことが決定打となりました。

導入 、その効果

システムとしてはAutodesｋ(Inferno/Flame/Smoke)とインジェスト用Ｍａｃ Pro、また最近ではオンラインでFinal Cut Ｐｒｏを使用したいといったニーズもあり、マスターモニターや各種計測機器を揃えた編集室を新たに新設することになりました。

最終的にはMacPro 1 式を増設、Gateway Serverを含めた6式を4Gbps Fibre Channelで接続するmetaSAN クライアントとしました。またda vinci Resolveに関しては最新ITへの挑戦の意味も含め、Ｇａｔｅｗａｙ Serverとの間に10Gbpsの専用ネットワークを構築しました。　こういった柔軟性も、metaSAN がオープンなコンセプトを持つからこその賜物では、と考えています。

「各端末で作成したデーターをmetaSANのセンターストレージに書き出す、といった解り易いフローに統一化できたことの意味は大きいです。」(杉山氏)

これまでのテープベースでのワークフローでは書き出しまでにいくつかの工程を組まなくてはならない必要があり工程の数はそれだけリスクを増やすことに繋がりました。また作業内容に合わせ、部屋の移動ごとに実時間必要だったＶＴＲへの書き出し業務はそのままＶＴＲのメンテナンスコストに跳ね返ります。
ファイルベース化することでのメリットはそれぞれのユーザによって異なると思いますが、その恩恵を最大限に引き出すためにはファイルベース化と同時にネットワーク構築をどうするか?という点をセットで考える必要があるということを導入後、改めて納得させられました。

「既存のLANのインフラでファイルベースの受け入れ態勢に踏み切ったとしても、各端末間のデータ受け渡しに混乱が生じることは目に見えていました」(井口氏)

metaSAN導入後は課題であったインジェスト業務も予想通りスムーズに行えています。ボリューム共有が行えることで編集室とは別にあるバックグランドのＭａｃで作業を行いセンターストレージに書き出しておけば、編集室からはファイルをダイレクトにマウントし作業を行えるため、本来のクリエイティブな作業に没頭してもらうことができます。
またアウトプットが多様化することで多種のフォーマットにコンバートするケースが今後増えてくると思うのですが、ファイル共有が可能なため、複数マシーンから共有し、必要なフォーマットに同時進行で行うことも可能です。

今後のシステム展望

確かにネットワークへの投資はポストプロダクションにとって料金を生まない無償のサービスであるのかも知れません。ただ、お客様にお借り頂いた編集室の使用時間の中で、最大限の品質向上に勤める、といった本来のポストプロダクションのあるべき姿に立ち返ると、お客様の"待ち"時間をできるだけ減らし、その減らした"待ち"時間にワンステップ上のサービスを提供すること、その提供をスムーズに移行できる仕組み作りに投資をするだけの価値があると考えました。
「そのサービスこそが弊社の強みであるカラーグレーディングです。」(井口氏)

今回のリニューアルを契機に既存のda vinci Resolveも最新のVer7にアップグレードし、REDONEのBuild30に対応、コントロールパネルも新型にリニューアルしています。また新たにAutodesk Lusterを導入し、強みであるカラーグレーディング部分を強化し、多様化するニーズにも柔軟に対応することが可能になりました。「インとアウトが多様化することで、当然それぞれのアプリケーションごとに強いところも、弱い部分も出てくると思います。ただmetaSANのインフラがあれば、顧客ニーズに合わせてアプリケーションを自由に選択したり、それぞれのアプリケーションに渡って作業を行うこともスムーズに対応できます。」(杉山氏)

「顧客ニーズに合わせたアプリケーション選択や混在は、カラーグレーディングに留まらず、全ての映像制作において言える内容だと言えます。そういう時代だからこそ、それぞれのメーカー間の連携が重要な鍵となります。VGIさんとシリコンスタジオさんの協業には弊社も大きな期待を寄せています。」(井口氏)

写真下部はセンターストレージ(Infotrend社Eonstor)
中央にはテロップ素材管理用に使用していた既存のXserveをmetaSAN Clientに参加させ、全ての制作端末のアクセスを可能にしている。

ビジュアル・グラフィックス株式会社
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-27-11 祐真ビル本館 5F
Tel : 03-6805-0481　Fax : 03-3797-9771
URL: http://www.vgi.co.jp　Email : vgi@vgi.co.jp
Visual Graphics Inc.